

事務事業名	キャリア教育推進事業			会計	一般会計		事業種別		政策	開始	19	終了		
H27担当課等名	生涯学習・スポーツ課		H27係等名	地育力向上係		H26係等名	地育力向上係							
基本計画上の位置づけ	政策	2	地育力によるこころ豊かな人づくり											
	施策	22	義務教育の充実											
目的	対象(誰・何を)	市内小・中学校、飯田市下伊那郡内事業所						指標名及び単位		26年度数値				
	意図(どういう状態にするか)	職場体験学習等を通して、子どもたちが良好な職業観を持ち、自らの人生を主体的に切り拓く力を備え、地域にも貢献しようとする意欲を持てるようにする						小・中学校数		28				
	向上させたい上位施策の成果指標	キャリア教育、体験活動により、自分の生活を見直すことのできた生徒の割合:%						職場体験学習を受け入れる事業所数		300				
目標	種別	指標名及び単位						26年度計画	26年度実績	27年度計画	28年度見込み	備考(指標変更など)		
	成果指標	中学校職場体験学習実施日数(平均・日)						3.6	3.6	3.6	3.6			
	成果指標	職場体験学習受入れ事業所数(受入れ意思がある事業所・事業所)						300	298	300	310			
	定性目標													
事業概要	<p>キャリア教育で育みたい5つの力 「人とつながる力」、「課題を持って最後までやりぬく力」、「自分を見つめ夢や目標を描く力」、「職業や仕事について興味や関心をもつ力」、「ふるさとの良さに気づき自らかかわる力」 ・飯田のキャリア教育は、子どもたちが働く意義を知り勤労意欲を持つこと、夢を抱きそれを実現しようとする意欲を持つこと、さらには、ふるさとに生かされている自分に気づき地域社会に貢献しようとする意欲を持つことを目的に、キャリア教育推進協議会、キャリア教育研究委員会を組織して推進している。 ・中学校での職場体験学習を、地域内の事業所の協力を得て実施することを中核的な取組みとして推進してきた。 ・現在は、職場体験学習を引き続き中核活動に据えつつも、各教科、総合的な学習の時間、特別活動の時間、児童・生徒会活動等の全ての教育活動の中にあるキャリア教育の断片をつなぎ合わせて横断的、系統的な取組みへと発展させることを目指している。 ・小中連携・一貫教育の中にもキャリア教育の推進を位置づけ、9年間を通じた中学校区単位でのキャリア教育を推進する。</p>													
26年度事業内容	事業内容						名称			活動指標				
	1 市内9中学校の職場体験学習のための受け入れ職場の確保						1 事業所等の数			1 298事業所				
	2 職場体験の事前学習としてのガイダンスへの講師派遣						2 講師派遣回数			2 11回				
	3 キャリア教育推進協議会による推進と研究委員会による調査研究 (1) 推進協議会、研究委員会の開催 (2) 小中連携のあり方研究のための小中連携協議会の開催 (3) フォーラムの開催						3 (1) 会議開催 (2) 会議開催 (3) 開催数			3(1) 5回 (2) 2回 (3) 1回				
	4 小中連携・一貫のキャリア教育の実施 (1) 各中学校区におけるキャリア教育の指導指針・実施計画の作成 (2) キャリア教育を一つの柱とする中学校区 (3) 教職員対象の研修事業の開催						4 (1) 指針・計画策定校区 (2) 実施中学校区 (3) 研修会開催			4(1) 1中学校区 (2) 6中学校区 (3) 1回				
	5 各中学校代表生徒による「結いジュニアリーダー育成講座」の実施						5 (1) 受講人数 (2) 開催回数			5(1) 15人 (2) 5回				
事業コスト		25年度決算額	26年度予算額	26年度決算額	27年度予算額	特定財源内訳、補足								
事業費計(千円)①		670	723	503	684									
国庫支出金														
県支出金														
起債														
その他														
一般財源		670	723	503	684									
人件費計(千円)②		5,902		5,902										
正規職員所要時間		1,500		1,500										
臨時職員所要時間		500		500										
総事業費①+②		6,572	723	6,405	684									
事業内容・目標達成状況の振り返り	<p>職場体験学習受入先事業所については、新規事業所への依頼を行った。成果目標には至らなかったが、新規で15事業所を開拓した。経済状況が厳しい中、また高校生・大学生インターンシップとの日程の重複等もあり、引き続き新規事業所への依頼を行っていく。 小中連携・一貫教育の実施要綱にキャリア教育の必要性を位置づける中学校区が増えてきた。</p>													
改革改善の考え方	①問題点	下伊那郡内の中学校や高等学校と職場体験学習が重複する状況がみられる。発達段階に応じた系統的な取組の観点から、キャリア教育の小中一貫した実践が必要である。												
	②改革提案	受入事業所の確保に向けて、飯田商工会議所等と連携してキャリア教育の取組みを説明し受入を依頼していく。H26小中連携・一貫教育実施計画でキャリア教育に取り組む中学校区の指導計画作成に向けた支援を行う。												